

2026 年 10 月 6 日 全 9 頁

消費データブック（2026/10/6 号）

個社データ・業界統計・JCB 消費 NOW から消費動向を先取り

経済調査部 エコノミスト 龐 鈞文

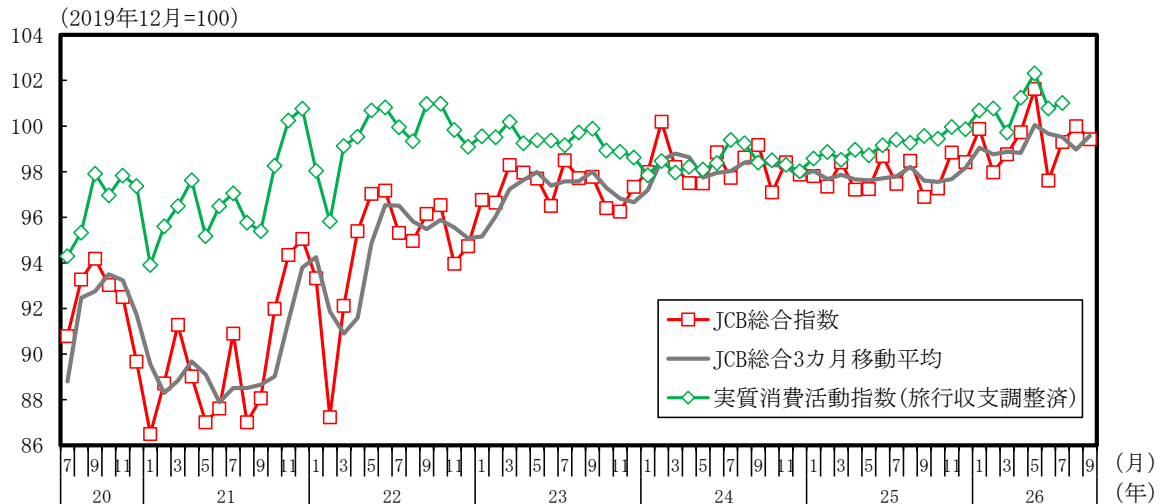
[要約]

- 2026 年 8 月の消費は 7 月から増加した。財については、百貨店、スーパーと家電大型専門店（大和総研による季節調整値）の販売額が前月から増加した。一方、新車販売台数（同）は減少した。サービスについては、新幹線と航空機の輸送量の前年比伸び率は総じて軟調だった。外食産業売上高の前年比伸び率が前月から縮小し、宿泊者数も前月から減少した。
- 9 月の消費は 8 月から減少したとみている。財消費では、9 月前半の実績をもとに試算したスーパーの JCB 消費額（大和総研による季節調整値）と家電の JCB 消費額（同）は減少した。一方、アパレルの売上高は堅調に推移し、新車販売台数（同）も増加した。サービス消費では、宿泊の JCB 消費額（同）と外食の JCB 消費額（同）は天候不順もあっていずれも前月から減少した。一方、新幹線輸送量の前年比伸び率は前月から拡大した。

＜消費全体の動き＞

- ◆【JCB 総合指数】26 年 9 月の JCB 総合指数¹（月前半の実績に基づいた大和総研による試算の季節調整値、JCB データは以下同）によると、実質消費額は前月比▲0.6% だった。内訳を見ると、財・サービスとともに 3 カ月ぶりに減少した。

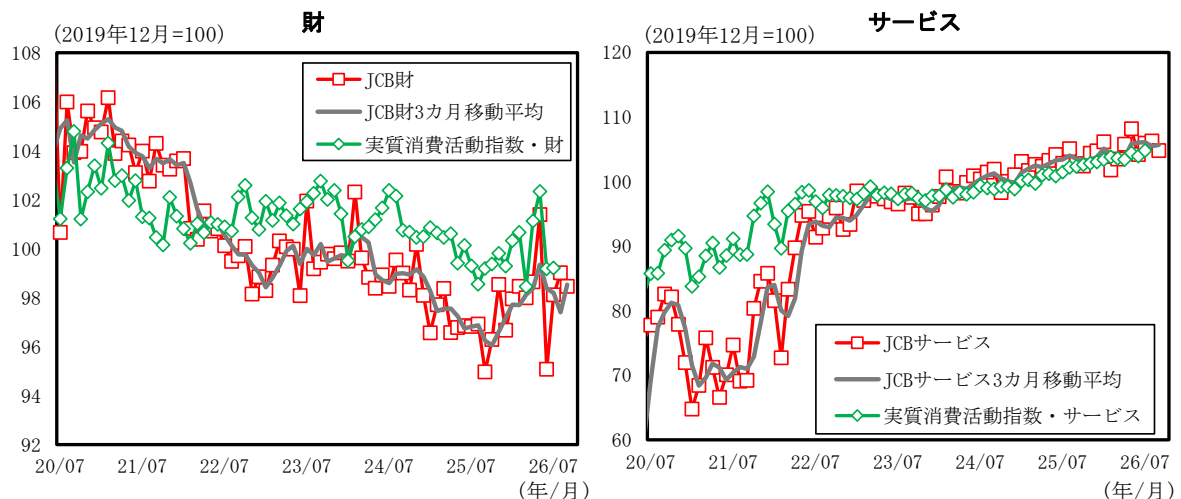
図表 1：消費活動指数・JCB 総合指数



（注）JCB 総合指数は大和総研による季節調整値。支出者数の変化を考慮に入れた参考系列を使用。燃料小売業、電気・ガス・熱供給・水道業および通信業を除く。対応する CPI で実質化。直近値は月前半のデータをもとに伸び率を試算（物価上昇分を調整）。

（出所）日本銀行、総務省、株式会社ナウキャスト/JCB「JCB 消費 NOW」より大和総研作成

図表 2：財・サービス別に見た消費の動き



（注 1）JCB 財指数・JCB サービス指数は大和総研による季節調整値。支出者数の変化を考慮に入れた参考系列を使用。燃料小売業、電気・ガス・熱供給・水道業および通信業を除く。対応する CPI で実質化。直近値は月前半のデータをもとに試算（物価上昇分を調整）。

（注 2）財の消費活動指数は、当該指数の耐久財・非耐久財を形態別ウエイトで加重平均したもの。

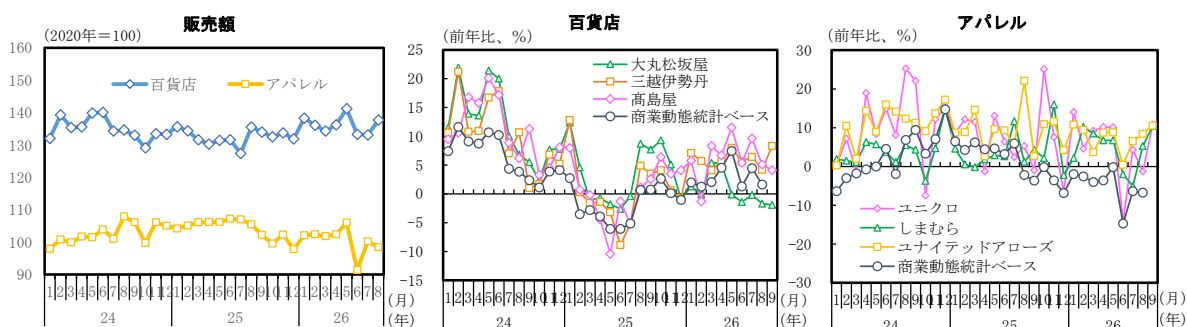
（出所）日本銀行、総務省、株式会社ナウキャスト/JCB「JCB 消費 NOW」より大和総研作成

¹ JCB グループ会員の中からランダムに抽出された約 1,000 万会員を対象に、ナウキャスト社が作成・公表している消費指数。

＜小売関係＞

- ◆【百貨店】 26 年 8 月の百貨店商品販売額（商業動態統計ベース、経済産業省による季節調整値）は前月比+3.5%と 3 カ月ぶりに増加した。内訳を見ると、飲料品（同+6.6%）、衣料品（同+2.0%）とその他（同+0.5%）はいずれも増加した。
- 26 年 9 月の大手百貨店の既存店売上高は、三越伊勢丹が前年比+8.3%と前月から伸び率が拡大した。上顧客向けイベントなどにより売上が好調だった。高島屋は同+4.1%と前月から伸び率が縮小したものの、引き続き堅調だった。気温の低下に伴い秋物衣料・雑貨の販売が堅調のようだ。また、大丸松坂屋は同▲1.9%と前月からマイナス幅が小幅に拡大した。大丸松坂屋では、店舗の売場縮小や前年の万博会場売上の反動減などが引き続き下押ししたようだ。
- ◆【アパレル】 26 年 8 月のアパレル販売額（商業動態統計ベース、経済産業省による季節調整値）は前月比▲1.8%と 2 カ月ぶりに減少した。
- 26 年 9 月のアパレル大手の既存店売上高を見ると、しまむらは前年比+10.4%、ユナイテッドアローズ（現 TABAYA ホールディングス）は同+10.5%と前月から伸び率が拡大した。ユニクロは同+10.8%と前月のマイナスから大幅なプラスに転じた。気温の低下や休日数の増加などにより、秋物商品などの売上が好調のようだ。

図表 3：百貨店・アパレルの販売額



(注 1) 販売額は経済産業省による季節調整値。アパレルは、商業動態統計の「織物・衣服・身の回り品小売業」を参照。サンプル替えの影響を除いている。

(注 2) 百貨店は既存店ベース。三越伊勢丹の 25 年 8 月と 26 年 1 月は、前年とのイベント時期のずれによる影響が調整されている。

(注 3) アパレルは既存店ベース（含むネット通販）。しまむらの各月の数値は前月 21 日から当月 20 日の集計値。

(出所) 経済産業省統計、各社資料より大和総研作成

◆【スーパーマーケット】

26 年 8 月の販売額は前月比+0.4%（商業動態統計ベース、経済産業省による季節調整値）と 2 カ月連続で増加した。飲食料品（同+0.4%）が増加した一方、衣料品（同▲1.5%）とその他（同▲1.4%）が減少した。

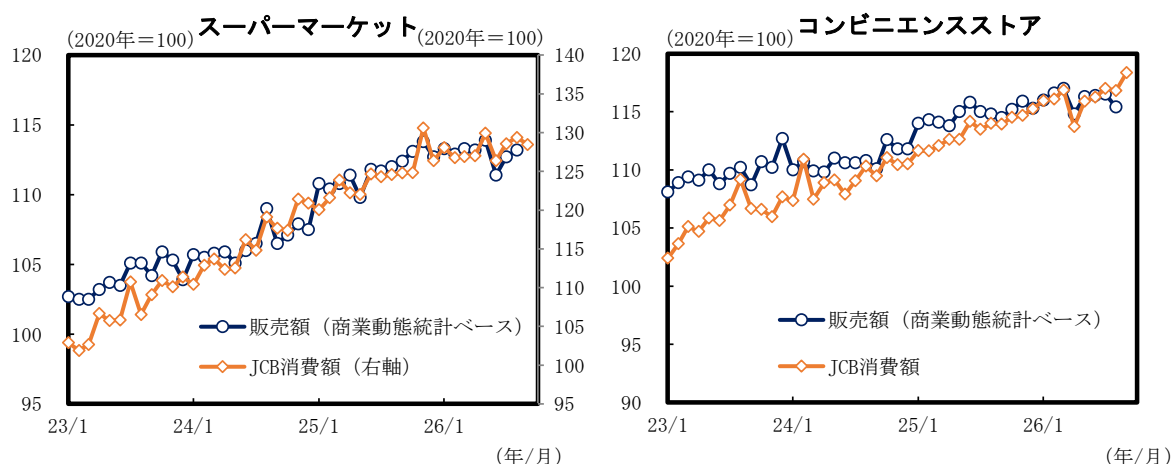
26 年 9 月の JCB 消費額（スーパーマーケット）は前月比▲0.7%と、3 カ月ぶりに減少した。

◆【コンビニエンスストア】

26 年 8 月の販売額は前月比▲0.9%（商業動態統計ベース、経済産業省による季節調整値）と 4 カ月ぶりに減少した。サービス売上高（同▲13.4%）と加工食品（同▲1.5%）が減少し、全体を押し下げたほか、非食品（同▲0.1%）も減少した。一方、ファーストフード及び日配食品（同+0.5%）は増加した。

26 年 9 月の JCB 消費額（コンビニエンスストア）は前月比+1.3%と、2 カ月ぶりに増加した。

図表 4：スーパーマーケット・コンビニエンスストアの売上高



（注）商業動態統計ベースの販売額は経済産業省による季節調整値。JCB 消費額は大和総研による季節調整値で、月前半のデータをもとに試算。支出者数の変化を考慮に入れた参考系列を使用。

（出所）経済産業省、株式会社ナウキャスト/JCB「JCB 消費 NOW」より大和総研作成

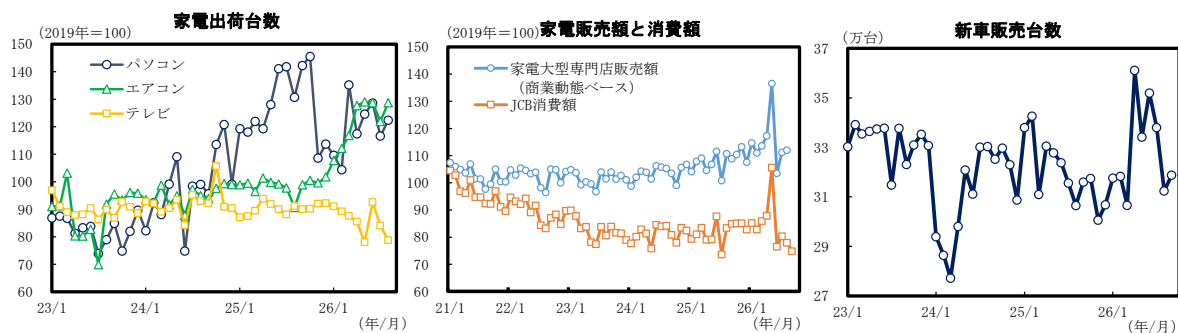
- ◆【家電】26年8月の家電大型専門店の販売額（商業動態統計ベース、大和総研による季節調整値）は、前月比+0.7%と2カ月連続で増加した。出荷台数（大和総研による季節調整値）で見ると、エアコン（同+5.6%）とパソコン（同+4.9%）が増加した一方、テレビ（同▲6.3%）が減少した。エアコンについては新たな省エネ基準²が2027年度から適用されるが、省エネ性能の向上に伴い、販売価格が上昇する可能性を見越した需要が続いたほか、自治体による省エネ家電の補助金制度³も寄与したとみられる。

26年9月のJCB消費額（機械器具小売業）は前月比▲5.2%と、2カ月連続で減少した。

- ◆【自動車】26年8月の新車販売台数（大和総研による季節調整値）は、前月比▲7.6%と2カ月連続で減少した。内訳を見ると、小型乗用車、普通乗用車と軽四輪乗用車はいずれも減少した。

26年9月は前月比+2.1%と3カ月ぶりに増加した。内訳を見ると、普通乗用車と軽四輪乗用車は増加した。一方、小型乗用車は減少した。26年3月末での自動車税の環境性能割の廃止による需要への影響が一巡した可能性がある。

図表5：家電出荷台数と販売額、新車販売台数



（注）大和総研による季節調整値。JCB消費額はJCB「機械器具小売業」。支出者数の変化を考慮に入れた参考系列を使用。直近値は月前半のデータをもとに伸び率を試算。

（出所）電子情報技術産業協会、日本冷凍空調工業会、日本自動車販売協会連合会、全国軽自動車協会連合会統計、株式会社ナウキャスト/JCB「JCB消費NOW」より大和総研作成

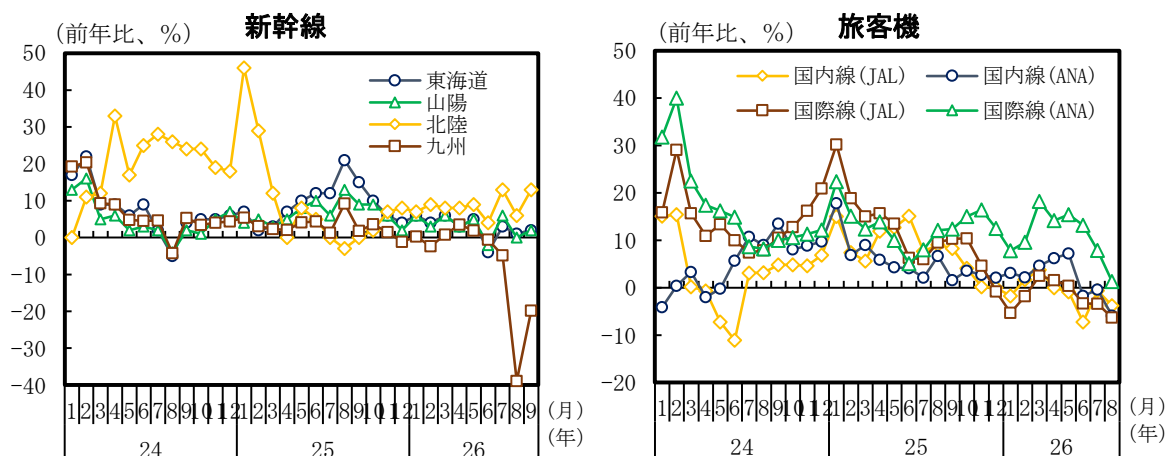
² エネルギーの使用の合理化及び非化石エネルギーへの転換等に関する法律（省エネ・非化石転換法）に基づく「トップランナー制度」により、2027年4月からエアコンの新たな省エネ基準（2027年度基準）が適用される。詳しくは資源エネルギー庁「[27年4月からエアコンの新たな省エネ基準がスタート！エアコンについて知っておくべきポイントは？](#)」（2026年4月17日）を参照。

³ 日本経済新聞「[エアコン出荷額、8月は5割増で過去最高 価格上昇前の駆け込みで](#)」（2026年9月18日）

＜サービス関係＞

- ◆【新幹線】26年8月の輸送量は、東海道新幹線が前年比+1%、山陽新幹線が同±0%、北陸新幹線が同+6%だった一方、九州新幹線は同▲39%と大幅に落ち込んだ。7月28日に発生した令和8年熊本地震による観光客数の減少や新幹線の運休⁴の影響が表れた。
- 26年9月は、東海道新幹線が前年比+2%、山陽新幹線が同+2%、北陸新幹線が同+13%といずれも前月から伸びが拡大した。九州新幹線は同▲20%とマイナス幅が縮小したものの熊本地震前を下回る。
- ◆【旅客機】26年8月の国内線輸送量（含むグループ会社）では、ANAは前年比▲5.9%、JALは同▲3.8%といずれも前月からマイナス幅が拡大した。国際線輸送量（同）では、ANAは同+1.3%と前月からプラス幅が縮小した。JALは同▲6.3%とマイナス幅が拡大した。大型台風の接近や前年の万博需要の剥落などにより、国内線需要に影響が表れたとみられる。また、原油高等に伴い、ANAとJALが7月1日発券分から燃油サーチャージを引き上げ⁵、国際線の需要を下押しした可能性がある。

図表6：新幹線・旅客機の利用状況



(注1) 26年9月の東海道は24日、山陽・北陸は21日、九州は22日まで。JAL・ANAのデータはグループ会社を含む。

(注2) 北陸は上越妙高～糸魚川間の輸送量。

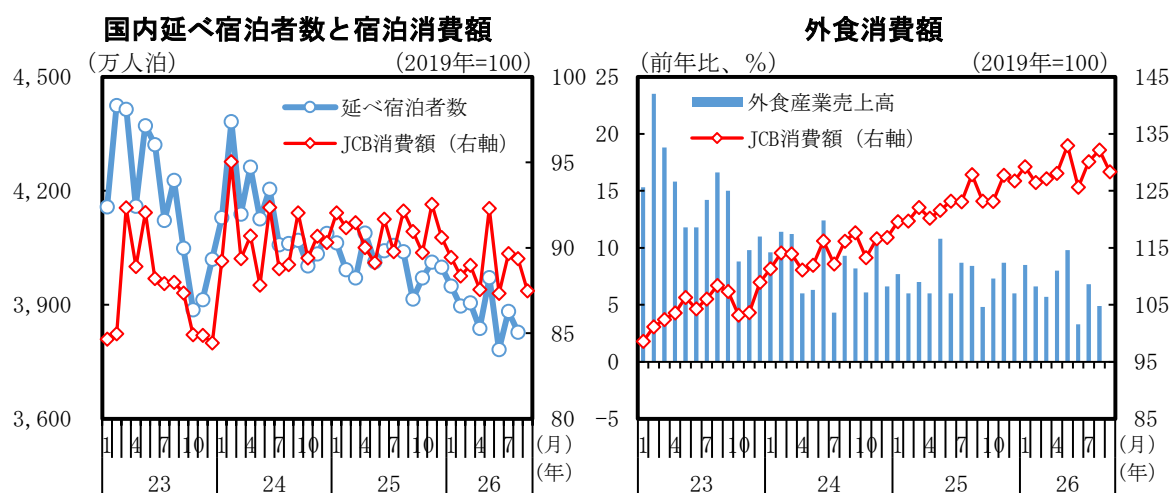
(出所) JR 東海、JR 西日本、JR 九州、JAL、ANA 資料より大和総研作成

⁴ 日本経済新聞 電子版「[九州新幹線 18 日全線復旧へ 鹿児島夏の人流激減、経済復興へ前進](#)」（2026 年 9 月 17 日）

⁵ 日本経済新聞 電子版「[ANA・JAL サーチャージ大幅上げ、欧州便 4 月比 2 倍 9 月以降は下落へ](#)」（2026 年 6 月 30 日）

- ◆【宿泊】 26 年 8 月の宿泊者数（観光庁、宿泊日数ベース、外国人を除く、大和総研による季節調整値）は前月比▲1.4%と、2 カ月ぶりに減少した。
26 年 9 月の JCB 消費額（宿泊）は前月比▲2.1%と、2 カ月連続で減少した。
- ◆【外食】 26 年 8 月の外食産業の売上高は前年比+4.9%だった。伸び率は前月から縮小した。21 年 12 月以降前年比プラスが続いており、堅調に推移している。
26 年 9 月の JCB 消費額（外食）は前月比▲2.9%と、3 カ月ぶりに減少した。天候不順もあって外食が控えられた可能性がある。

図表 7：国内延べ宿泊者数と宿泊消費額（左）、外食消費額（右）



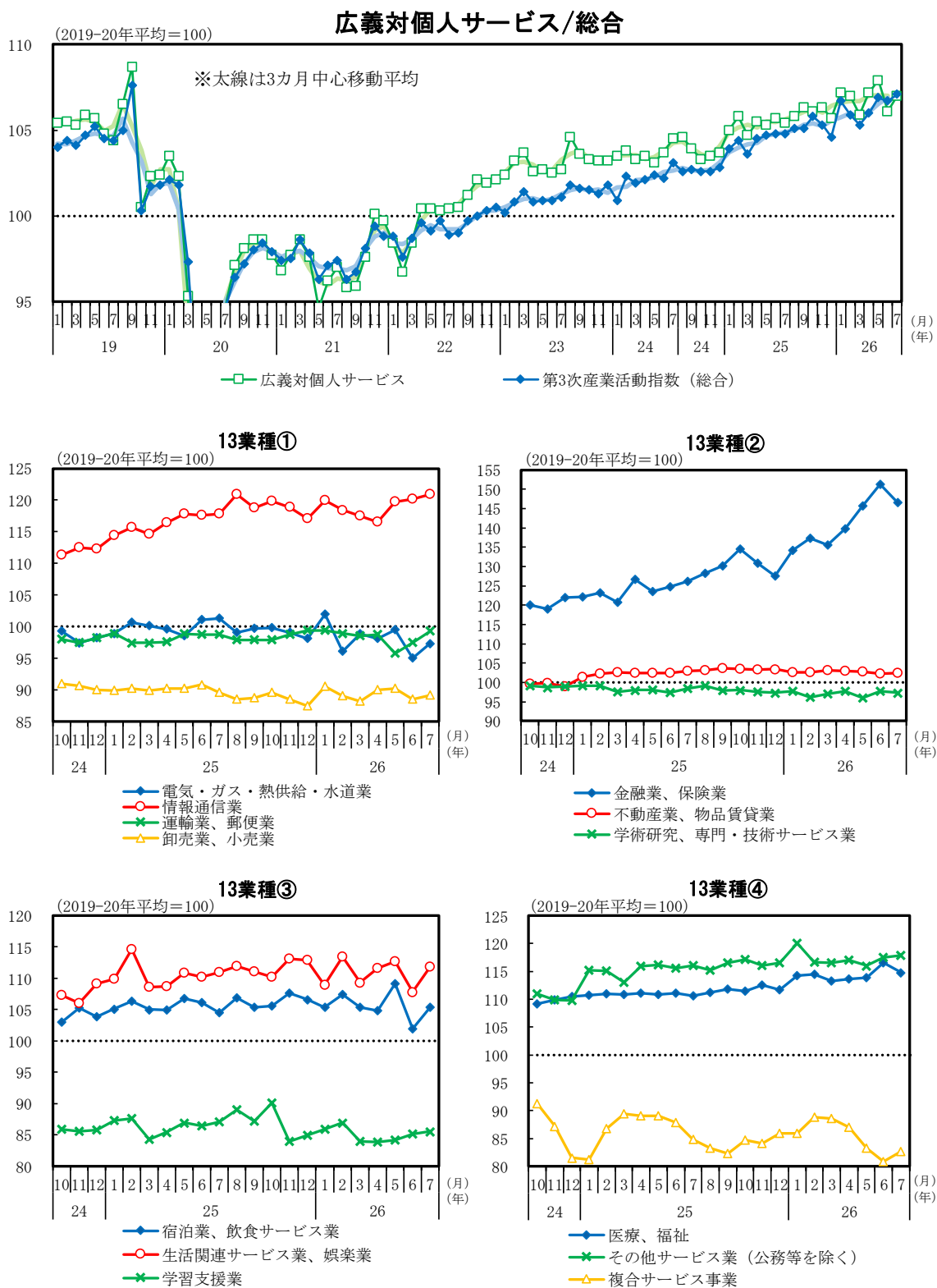
(注 1) 左図の国内延べ宿泊者数は、観光庁統計の宿泊日数ベースで外国人を除いたデータを用いている。大和総研による季節調整値。

(注 2) JCB 消費額は大和総研による季節調整値で、月前半のデータをもとに試算。支出者数の変化を考慮に入れた参考系列を使用。

(出所) 観光庁、一般社団法人日本フードサービス協会統計、株式会社ナウキャスト/JCB「JCB 消費 NOW」より大和総研作成

<参考：第3次産業活動指数>

図表8：第3次産業活動指数

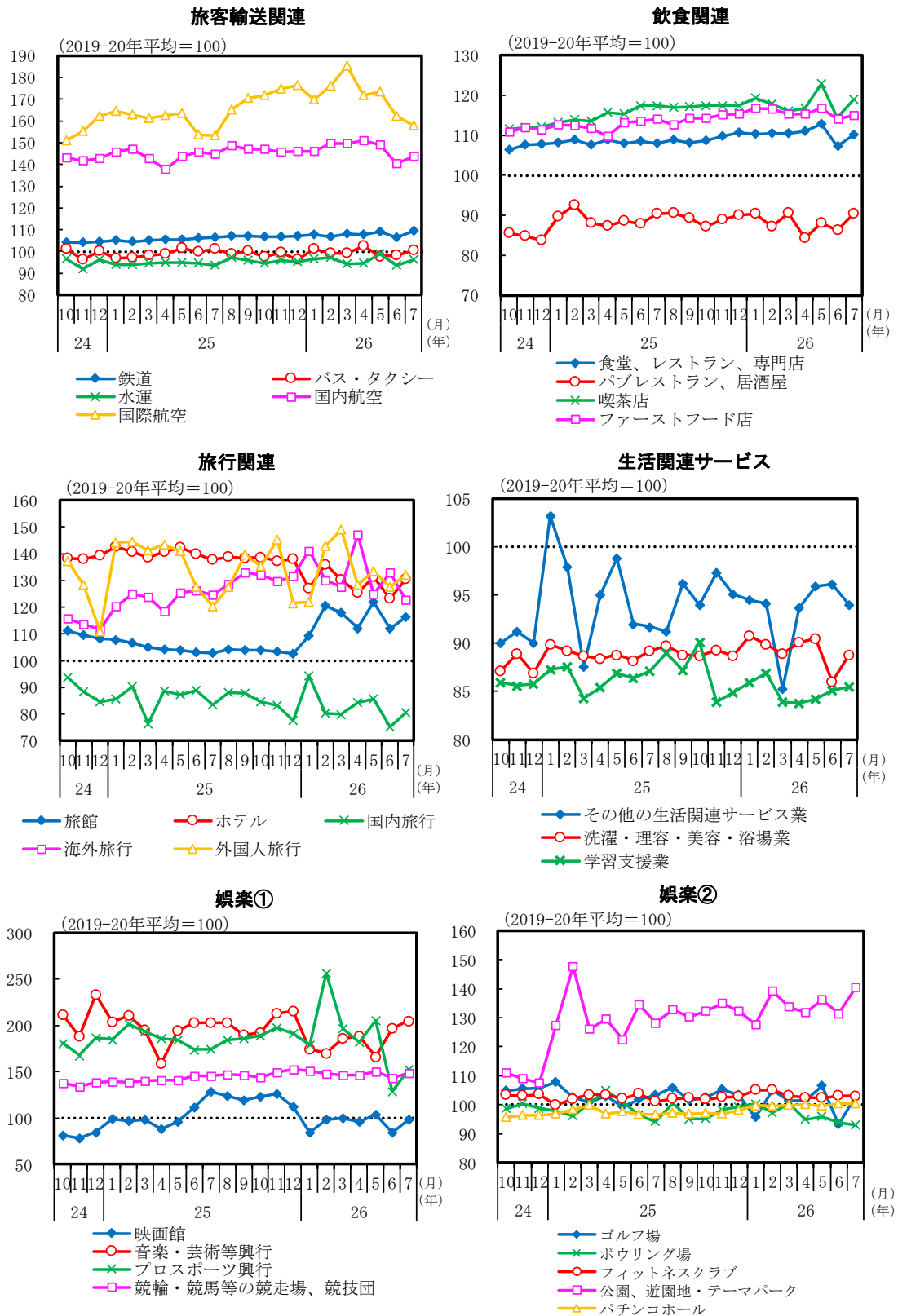


(注1) 季節調整値。

(注2) 13業種は、第3次産業活動指数の対象となっている日本標準産業分類の大分類13項目。

(出所) 経済産業省より大和総研作成

図表 9 : 運輸業・生活関連サービス業などにおける第3次産業活動指数の推移



(注 1) 季節調整値。

(注 2) 生活関連サービスの「その他生活関連サービス業」は、冠婚葬祭業や写真業など。

(出所) 経済産業省より大和総研作成